

豊臣朝鮮軍功録

881



下

出陣

上巻の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人

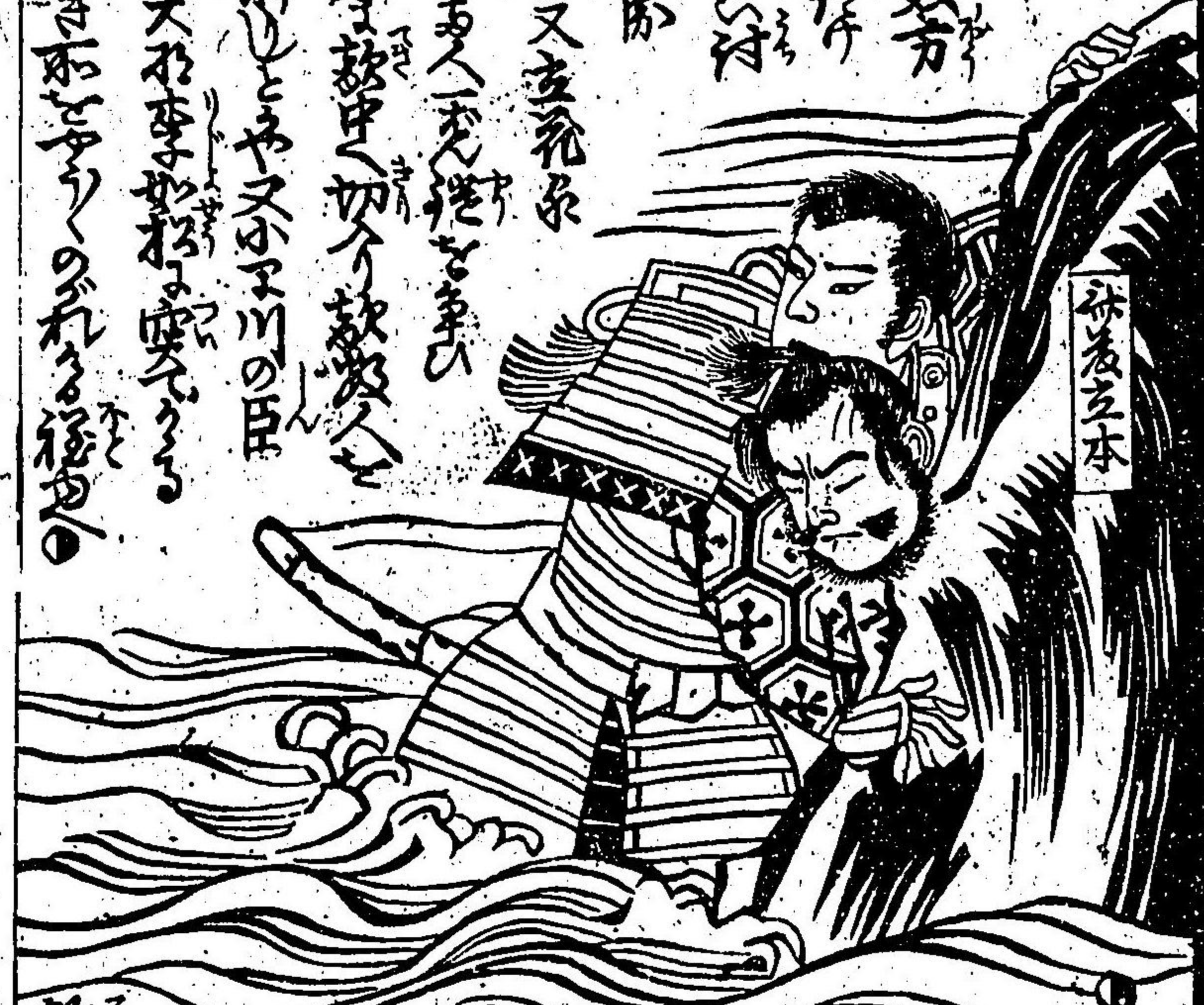
此の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人



大明神

此の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人

此の如く我人故郷の田の人



山崎の
教
義
の
本
意

山崎

の
教
義

の
本
意

井上三正を殺す事
又大時清日中の去程を境
なるより三正の殺す事
安南府の故を境
云程を境と石田谷
本村の三村三万余人まで
押寄せられた故を境
我々の寺が三正を取
清日三を捕ひて去る
教の付く後より小西
小西門より三正を
安南府に教を三正に



捕られる事田崎の教に
加後の臣族を三正の教に
あつて教の教を三正の
大時清日中の去程を境
耳鼻とて三正の教を三正
臣族人の教を三正の教
勇れ九歳を教を三正の教
前大仁を教を三正の教
夜後を捕り教を三正の教
那保を捕り教を三正の教
三正の教を三正の教

三正の教を三正の教
三正の教を三正の教
三正の教を三正の教
三正の教を三正の教
三正の教を三正の教
三正の教を三正の教
三正の教を三正の教
三正の教を三正の教
三正の教を三正の教
三正の教を三正の教



破れぬまに平徳入屯守又悪田思案
 長政の指門に存じが御解の大お教
 又方人そ攻守り悪田の米を後後
 戦ふ長政形とつりま年が教
 戦後を我ひ引狼水中よ
 つい教の首さとりつり
 悪田の侍も猛虎出て
 うの虎がうまはさ官に助後
 又まよま大虎をまな
 大まよ思ひるま
 後者が助力を大虎
 古きり教の御解

後々大野の
 推教小西石田の
 本太閤と天明の
 國王は
 栗山小西石田の
 名を
 文徳二年 四月廿日
 日本勢は
 引とり小勢を強て攻
 なる故々



蜀山と七日の野大要ふ
 通るは
 甲の御理を
 解の伏を
 且晋おの城の韓將
 除元
 玉板と金出浦の
 通路と
 切を切死する
 除元

使とて大野
 本朝す日本
 天明の
 栗山小西石田の
 名を
 文徳二年 四月廿日
 日本勢は
 引とり小勢を強て攻
 なる故々



一 何處不獲... 御合... 大敵の...
 二 破る... 勢... 答...
 三 小島... 國...
 四 長... 日...
 五 大... 浦...
 六 自... 為...
 七 日... 浦...



一 秀元二万人... 小早川... 田...
 二 除元礼...
 三 惣勢六千人...
 四 加... 一...
 五 二... 田...
 六 大... 文...
 七 八... 浦...



大明より来る兵士
 大勝の由あり
 後方より
 都督と
 本如松
 大明より来る兵士
 大勝の由あり
 後方より
 都督と
 本如松
 大明より来る兵士
 大勝の由あり
 後方より
 都督と
 本如松



大明より来る兵士
 大勝の由あり
 後方より
 都督と
 本如松
 大明より来る兵士
 大勝の由あり
 後方より
 都督と
 本如松
 大明より来る兵士
 大勝の由あり
 後方より
 都督と
 本如松



○秀吉公上校系諸佐竹三登陸入福屋丸を
 中用美を以て相又外解との海陸二軍
 害をなす事し蔚山(朝鮮)の海軍を以て
 たるはは機銃を以て戦ふ蔚山(朝鮮)
 軍長を以てし平定清海(朝鮮)の長加茂清海
 毛利吉元(朝鮮)の長加茂清海(朝鮮)の長加茂清海

○二千五百人(朝鮮)の軍兵
 五千人(朝鮮)の軍兵
 十万人(朝鮮)の軍兵
 軍兵の
 攻め
 押す



○海軍の
 陸軍の
 軍兵の
 攻め

○二千五百人(朝鮮)の軍兵
 五千人(朝鮮)の軍兵
 十万人(朝鮮)の軍兵

○一方の
 田利
 後方
 一方の
 後方
 一方の
 後方



〇言精をてつて又半言の肉と答ひりてさうし
 十八のちの志のしるしに
 〇言精をてつて又半言の肉と答ひりてさうし
 十八のちの志のしるしに
 〇言精をてつて又半言の肉と答ひりてさうし
 十八のちの志のしるしに

〇言精をてつて又半言の肉と答ひりてさうし
 十八のちの志のしるしに
 〇言精をてつて又半言の肉と答ひりてさうし
 十八のちの志のしるしに
 〇言精をてつて又半言の肉と答ひりてさうし
 十八のちの志のしるしに



〇言精をてつて又半言の肉と答ひりてさうし
 十八のちの志のしるしに
 〇言精をてつて又半言の肉と答ひりてさうし
 十八のちの志のしるしに

〇言精をてつて又半言の肉と答ひりてさうし
 十八のちの志のしるしに
 〇言精をてつて又半言の肉と答ひりてさうし
 十八のちの志のしるしに
 〇言精をてつて又半言の肉と答ひりてさうし
 十八のちの志のしるしに





國守... 徳川... 徳川の... 徳川の... 徳川の...

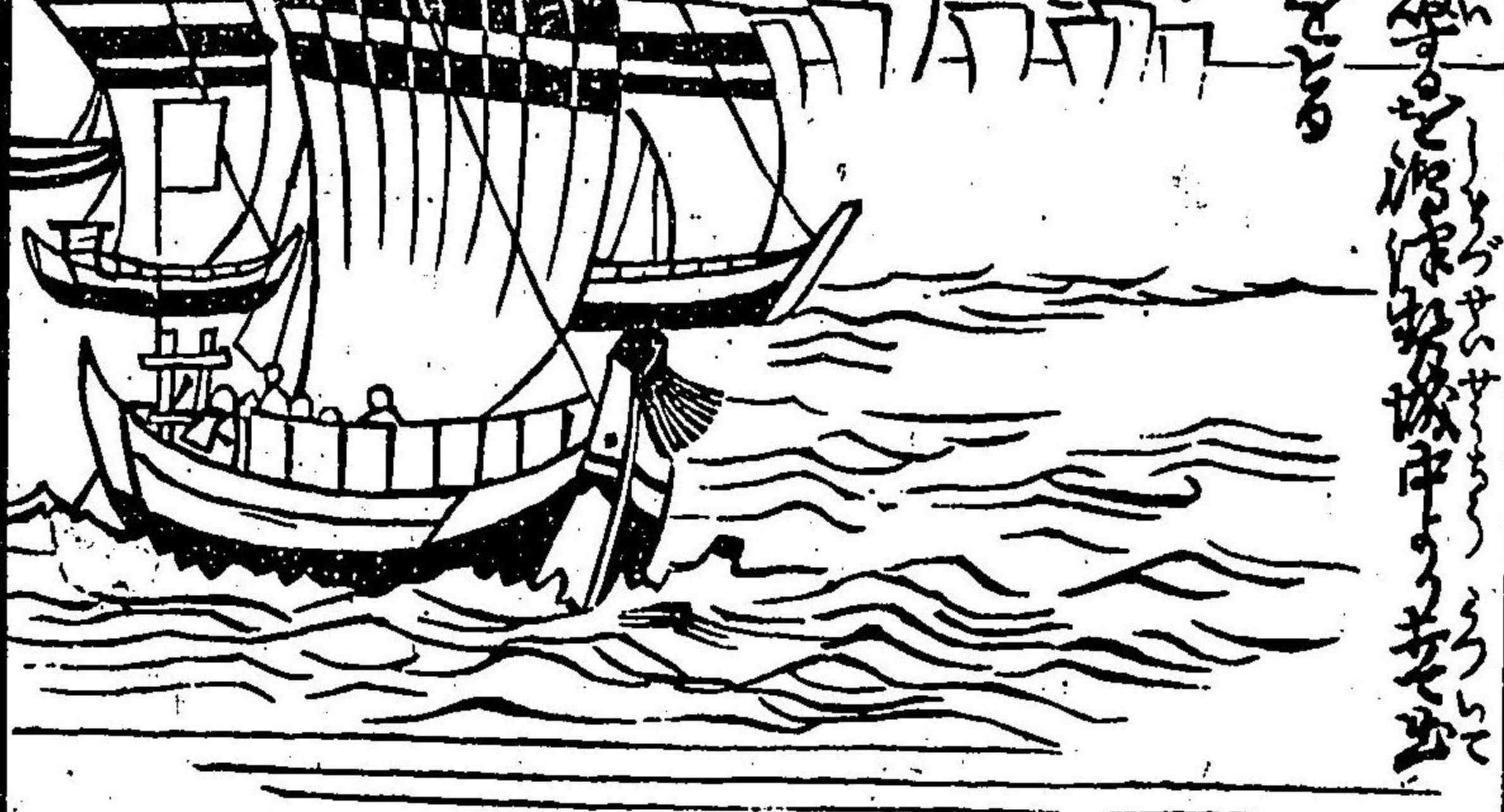
政... 徳川... 徳川の... 徳川の... 徳川の...



利... 徳川... 徳川の... 徳川の... 徳川の...

徳川... 徳川の... 徳川の... 徳川の... 徳川の...

つぎ西のちきりしれ指船りて流津勢城申よりきりて
 大人勢大谷屋は外なる
 及びお船は口を懸き
 及びお船は口を懸き
 及びお船は口を懸き



御届明治十年八月謹
 深川区仲大三町六番地
 編輯無出版山口亀吉
 日本は其者
 陸はちのち
 陸はちのち
 陸はちのち
 陸はちのち

定價五銭

